

ぜんだてやあとかたづけなどは興味が小である。

・ミシンの使い方、涼しく暖かいすまい方、小遣い帳のつけ方、応接や訪問など学習したい順位は都市・農村で異なる。

D-11 家庭科学習内容に対する児童の興味

広島大教育学部付属小 道丹 博子

1. 小学校家庭科の学習内容に対して、児童はどのような内容に、どのような興味をもっているかを、一対比較法によって調査し、指導計画の立案、指導法のくふうに資するため、都会と農村の地域について比較検討した。

2. 昭和40年5月～7月の期間に、広島県の都市・農村のそれぞれ1小学校の第5・6学年の児童を対象として、調査用紙を配布して調査を行なった。

調査用紙の質問項目は、現行の小学校家庭科学習指導要領の内容を20項目に精選して、190対の項目を作成した。学習内容の説明をして、左右いずれか学習したい方の学習内容に○印を記入させた。

どちらも学習したい、どちらも学習したくない場合は、多少でも学習したい方に必ず○印を記入させるようにした。

3. ・ミシンの使い方、日常食の調理、食事作法、食物の栄養こんだて、のれん、かびん敷の製作は興味が大きいである。

・つくろいもの、衣服の長期保存、日常のそうじ、お